

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1490600127	事業の開始年月日	平成 24年2月1 日	
		指定年月日	平成24年1月31日	
法人名	株式会社 シリセス			
事業所名	グループホーム星川園			
所在地	(〒240-0064) 神奈川県横浜市保土ヶ谷区峰岡町1-13-1 サンワールドビル3F			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名	
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	9名	
		ユニット数	1ユニット	
自己評価作成日	平成27年 3月 7 日	評価結果 市町村受理日	平成27年 5月 25日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> 入居者の希望、心身の状態、家族の意向等を考慮し柔軟に個別的に支援し入居者にとってより満足出来る生活が可能になる様、常に心掛けている 入居者の心身のQOL維持向上に努め、日常生活の全ての場面で入居者本人の残存能力を見極め、支援している。 レクや外出、買物など入居者が社会と孤独した存在とならない様、積極的に外部との交流を進め、ストレスをためず楽しみある生活を心掛けている。 地域交流、異世代交流に積極的に取り組む、高齢になっても尊厳ある生活を目指している。 家族へ月1回、職員が手紙を書き、ホームでの様子を伝える努力を行っている。
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成27年3月27日	評価機関 評価決定日	平成27年 4月 23日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>【事業所の優れている点】</p> <p>◇利用者と家族の意向を反映したきめ細かな個別支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ケアマネージャーが毎月利用者宅を訪問して、家族に利用者の状況を報告するとともに意見や要望を聞き、毎月のスタッフ会議で検討して利用者の残存能力の維持とその人らしさを大切にきめ細かな個別支援に取り組んでいる。 具体例として、天気の良い日は近隣の散歩や買い物、部屋のモップかけや衣類の入れ替え、また、調理の手伝いやおはぎづくりなど、利用者の経験を活かしてできる範囲で手伝って貰っていることなどが挙げられる。 <p>◇地域住民、ならびに異世代間の交流</p> <ul style="list-style-type: none"> 利用者は職員と一緒に町内の餅つき大会や防災訓練、清掃に参加し、盆踊り大会では椅子を用意してもらするなど、地域の一員として交流している。 近くの児童施設家庭学園の生徒が、月に1~2回事業所を訪問し一緒にバーベキューを楽しみ絵を書いており、中学生の職業体験や大学生の研修も受け入れ、利用者には異世代との交流が良い刺激となっている。 <p>【事業所の工夫点】</p> <p>◇利用者の個々の要望に応じた外出支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 利用者が行きたいところを聞き取り、個別には美容院や寄席へ、また、お通夜に同行し、全員対象では初詣やお花見、いちご狩り、木更津のアウトレット、海ほたるツアーに出向くなどの外出支援を行っている。
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム星川園
ユニット名	-

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	2, 利用者の2/3くらいの
	3. 利用者の1/3くらいの
	4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまにある
	4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	2, 家族の2/3くらいと
	3. 家族の1/3くらいと
	4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	3. たまに
	4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている
	<input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている
	3. あまり増えていない
	4. 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	2, 職員の2/3くらいが
	3. 職員の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが
	3. 家族等の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業者の理念を掲示してある事により、常に意識した言動支援を行っている	・理念の「気遣う心、和める心、みんなで集える生活環境を」を廊下・トイレに掲示し、職員は常に意識してケアに取り組んでいる。 ・職員は利用者の気持ちを大切に、残存能力を維持するようきめ細かな対応に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、行事等に参加する事により、地域社会の一員として認知される様努めている	・利用者と職員が地域の清掃や餅つき大会、防災訓練に参加し、地域の一員として交流している。 ・オカリナ演奏やフラダンスなどのボランティア、また、児童施設家庭学園の生徒を受け入れ、利用者との交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症だからと言って何も出来なくなってしまう人という事ではないことを地域に出ていく事で理解して頂く努力をしている		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告、意見についてスタッフ会議で取り上げ、問題点を共有し、話し合い、サービス向上に活かしている	・家族代表、自治会長、民生委員、利用者家族、区の高齢障害支援課と地域包括支援センターの職員が参加して3か月ごとに開催している。 ・利用者からドライブの要望があり、外出支援に取り入れている。	運営推進委員会は、今後2か月ごとの開催が望まれます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村とは常に連絡を密に取り、協力し合いながら連携を取っている。月1回、介護相談員の方々を受け入れている	・区の介護保険課職員の新人研修や区役所の依頼で大学生の研修を受け入れるなど、協力関係を築いている。 ・区で初めての介護相談員を、毎月受け入れている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体束縛をしないケアについて全職員が正しく理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・職員は「身体拘束排除マニュアル」をベースに、虐待防止対策会議で話し合っって身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 ・職員は高齢者虐待チェックリストにて自身のケアを振り返り、身体拘束に当たらないことを確認している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止法について正しく学び、細心の注意を払って防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度について正しく学び、活用出来る様支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、利用者や家族に十分な説明を行い、理解と納得を図っている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族等からの意見、要望を受け止め、運営に反映させている	・利用者からは日常の会話の中で、家族からは面会時や管理者が電話で意見要望を聞き、得た情報は全職員で共有し、個別に対応して運営に反映している。 ・家族会を作ってほしいとの要望があり検討中である。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する職員の意見や提案を取り入れ反映させている	・職員の意見は、管理者がスタッフ会議や日常業務をとおして直接聞いている。 ・勤務体制改善についての意見があり、取り入れた事例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業環境の整備については、個々の状況・能力に応じて対応し、環境整備に努めている		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を積極的に活用し、職員の技能向上を図るよう努めている。年1回の交換研修を実施している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同業者との交流を積極的に進め、相互の良い所を取り入れるなど、サービスの質向上に反映させている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員は入居者に傾聴し、注意深く対応し、本人の不安を取り除く努力を行い、話しやすい関係を築くよう努めている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との信頼関係を気づく為、要望や不安を話しやすい環境作りを行い、傾聴に努め、不安を取り除く努力を行っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族等の要望を傾聴し、必要な支援を見極め、他サービスも含め、より良い生活の為の提案や助言を行っている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者が自宅で過ごす様にして頂く為、残存能力を見極め、出来る事は積極的に行って頂き、時には職員に教える場面も設けている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との信頼関係をしっかり築く事に努め、お互いが利用者を支える立場として協力し合う様努めている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者が行きつけだった店や美容院に継続的に行くなどの配慮により、本人のこれまでの関係が途切れない努力を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・行きつけの美容院への送迎や知人の葬式に同行するなど、これまでの関係の継続を支援している。 ・知人の来訪時には、お茶を出して支援に努めている。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の交流を大切にした支援に配慮し、利用者同士の関わり合い、支え合いを促す支援を心掛けている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても必要に応じて本人家族の相談や支援に努めている。お亡くなりになった方の命日には必ずお伺いする様になっている		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者の思いを傾聴し、言動や非言動的なものから、その思いを汲む努力を常に怠らず行い、支援に繋げている	・職員は利用者とは丁寧に向き合い、思いや意向の把握に努めている。 ・言葉で表現が困難な方には、表情や仕草から思いをくみ取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者のより良い生活の為に、かつての生活歴、生活環境などの情報収集を行い、生き活きと生活出来る様支援に繋げている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりの生活のパターン、心身状態、有する能力の把握に努め、小さな変化も見逃さないよう努力している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議においては、他職種とも協力し、チームとして総合的に支援していく様、介護計画を作成している	・全職員が毎月利用者個々のモニタリングを行い、スタッフ会議で検討している。 ・ケアマネジャーは、スタッフ会議での意見、看護師や家族からの意見を基に介護計画を作成し、利用者・家族の同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録から職員は情報を共有し、実践や介護計画の見直しに反映させている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の要望や状況の変化に個別に柔軟に対応している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し、活用する様努めている。毎年、中学生の職業体験の受入や自立支援学校の総合授業の組み入れをしている		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療、訪問歯科等との連携、提携医療機関との連携を密にとり、適切な医療を受け入れられる様支援している	・かかりつけ医での受診を支援し、管理者が同行して。 ・訪問医が月2回、歯科医師、看護師が毎週訪問し利用者の健康管理を行っており、全員が家族の同意を得て協力医と契約している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は看護職員と連携を密に取り、情報を共有し、協力を努め入居者の医療面での支援を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医療機関と緊密に連携を取り合い、早期退院に向け最大限支援を行っている、毎日のお見舞いを欠かさない		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期については本人、家族の意向を踏まえ十分納得出来る様話し合い、共有し支援している。延命措置要否の同意書を交わしている	・入居時に利用者と家族に看取りの方針を説明して同意を得ている。看取りに際しては、家族、医師、看護師と事業所で充分話し合っって取り組んでいる。 ・毎年外部研修に参加して、レポートを全職員で共有し資質の向上を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職場にAEDを設け、万一の急変、事故発生時、全職員が対応出来る様定期的に研修を行い、備えている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策については防災火災各訓練を行う事により地域との協力体制を築いている、年二回の訓練実施	・避難訓練は消防署の協力を得て地域住民の参加を呼びかけ、数人の協力を得て年2回行っている。 ・災害用の備蓄品には、飲料水、食料、防寒具等、ヘルメット等を備えている。	・備蓄品については賞味期限等を把握するためにも、リストを作成して管理することが望まれます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	当施設の理念にもある通り、人格を尊重した対応を全職員が心掛けている	<ul style="list-style-type: none"> ・職員は入社時に接遇や個人情報保護などの研修を受け、守秘義務に関する誓約書を提出している。 ・利用者へは苗字で呼びかけ、丁寧な言葉で対応し、問題あればその場で管理者は指導している。 ・個人記録は事務所の鍵付きのキャビネットに保管している。 	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が話しやすい環境を整え、表出しづらい利用者の思いを受け止める努力を行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活のペース、個々の状況や希望に最大限、応えらるよう努力している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの美容院を利用したり、染髪、買物の支援など個別に柔軟に対応している		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の残存能力に配慮し、一緒に調理や下ごしらえ、片付けをするなど支援し、工夫している。リクエストにもお答えできる様心掛けている	<ul style="list-style-type: none"> ・食材の購入には、利用者も一緒に出かけ、できる範囲で調理や下膳などに参加して残存能力が活かせるよう支援している。 ・ドライブを兼ねて全員で外食し、個別にすし屋、ラーメン屋などにも行っている。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取、水分摂取については、その量を記録し、把握して健康状態も含め支援に繋げ対応している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科でのチェックの他、日々の口腔体操と口腔ケアの支援によって、口腔ケアの重要性を認識し支援している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の記録により、個別のパターンを把握し、少しの変化を見極めて支援するなど排泄の自立を支援している。リハパンから布パンツへの支援を推進している	・排泄チェック表で排泄パターンを把握している。利用者の様子を見ながらさりげない言葉かけを行い、トイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	玄米や野菜、水分摂取などを積極的にすすめると共に運動を行い、薬に頼らない様対応している		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	身体の清潔保持、感染症を防ぐ等、入浴を勧め出来るだけ希望に沿って対応している。ゆず湯、菖蒲湯等季節に応じた入浴も実施している	・入浴は週2回午前中を基本としているが、利用者の要望にできる限り応じている。足浴や夏場はシャワー浴にも対応している。 ・利用者の希望に沿った湯温に気をつけ、菖蒲湯、柚子湯で季節感を楽しめるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別の生活パターンや日々の状況を見極め、支援している。寝具についても清潔に保てる様、支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については、主治医指導の下、事故の無い様細心の注意を払い確実な支援を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	社会から隔絶される事の無い様、楽しみ・レク・外出を重視し積極的に支援している		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望を最大限叶えられるよう支援している	・ 天気に良い日は近くの公園へ散歩に出掛け、また、ペットショップや食材の買出しに行っている。 ・ 個別対応の外出支援のほか、全員が車で花見やいちご狩、木更津のアウトレットなどに出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の意向、希望により支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者が自由に本人の意思で電話をしたり、手紙を書く等の支援をしている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の生花を飾るなど、居心地の良い共有空間作りに配慮している	・テーブルに、ゆりなどの季節の花を置き、利用者の様子や職員の体感で温湿度を調整している。 ・壁には利用者による桜の切り絵の他、ボランティアが描いた利用者の似顔絵を飾るなど、居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子席やソファ席などの自由に利用でき、居場所の工夫をしている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や仏壇など自由にレイアウトし、本人が居心地良く過ごせる空間作りを支援している	・馴染みの筆筒やカーテン、仏壇、テレビ、家族の写真を持ち込み、レイアウトは利用者が落ちつける環境になっている。 ・居室の整理、整頓、清掃は職員と利用者が共同で行っていて清潔に保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置や安全に配慮した動線の確保など自立に向けた工夫を行っている		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム星川園

作成日 平成27年5月 1日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議の開催が3か月ごとになっている。	会議の開催を2か月ごととする。	主席者の方々の意見を伺い理解を得る。	6ヶ月
2	35	災害対策用の備蓄品の保管について。	備蓄品のリストを作成する。	直ちに作成して賞味期限等を管理する。	1か月
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。